

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	平成30年度第4回桜区区民会議
2 会議の開催日時	平成30年10月25日(木) 10時00分～11時30分
3 会議の開催場所	桜区役所4階 大会議室
4 出席者名	【委員】 飯塚委員、五十嵐委員、市村委員、 岩田委員、榎本委員、大江委員、岡島委員、小川委員、 小澤委員、川上委員、河野委員、島崎委員、長沢委員、 原委員、福島委員、古屋委員、渡辺委員 【事務局】 コミュニティ課清宮課長、青木課長補佐、 根岸主任 【運営支援】 山口、石川、川村 (エコまちづくりフォーラム(株))
5 欠席者名	小山委員、高澤委員、千葉委員
6 議題及び公開又は非公開の別	(議題) (1) テーマの協議・意見交換 (2) その他 (公開又は非公開の別) 公開
7 非公開の理由	
8 傍聴者の数	0人
9 審議した内容	議題について、協議を行った。
10 問合せ先	桜区役所 区民生活部 コミュニティ課 電話番号 048-856-6130
11 その他	

平成30年度 第4回桜区区民会議

日時 平成30年 10月25日(木)

午前10時～

会場 桜区役所 4階大会議室

次 第

1. 開 会
2. 議 事
 - (1) テーマの協議・意見交換
 - (2) その他
3. その他
4. 閉 会

1. 本日の会議の概要

進め方は委員のみなさんで決めていきます

第1回 H30/05/29
テーマの協議

第2回 H30/07/25
テーマの協議

第3回 H30/08/29
テーマの協議

第4回 H30/10/25
テーマの協議

第5回 H30/12/21
協議報告書の
とりまとめ

第6回 H31/02/22
区長との
意見交換会

交流会 H31/03/20
市民活動ネット
ワークとの交流会

■ 前回 [第3回]

- ・ 第2回で協議した「高齢者支援」の内容について確認しました。



- ・ 桜区の「魅力づくり」と「地域資源」については類似部分が多いため、統合して協議を2回行うこととし、前回はその現状(各委員が知っていること、感じていることなど)を確認しました。
- ・ 最後に協議内容の確認を行いました。



会議の結果を受けて、三役で次回会議の進め方などを検討しました。

■ 今回 [第4回]

- ・ 第3回で協議した桜区の魅力などの「現状」について確認します。



- ・ 今回は、前回確認した桜区の魅力(地域資源)などについて、それらをどのように活用していけばいいかなど、意見交換を行います。
- ・ 最後に協議内容の確認を行います。



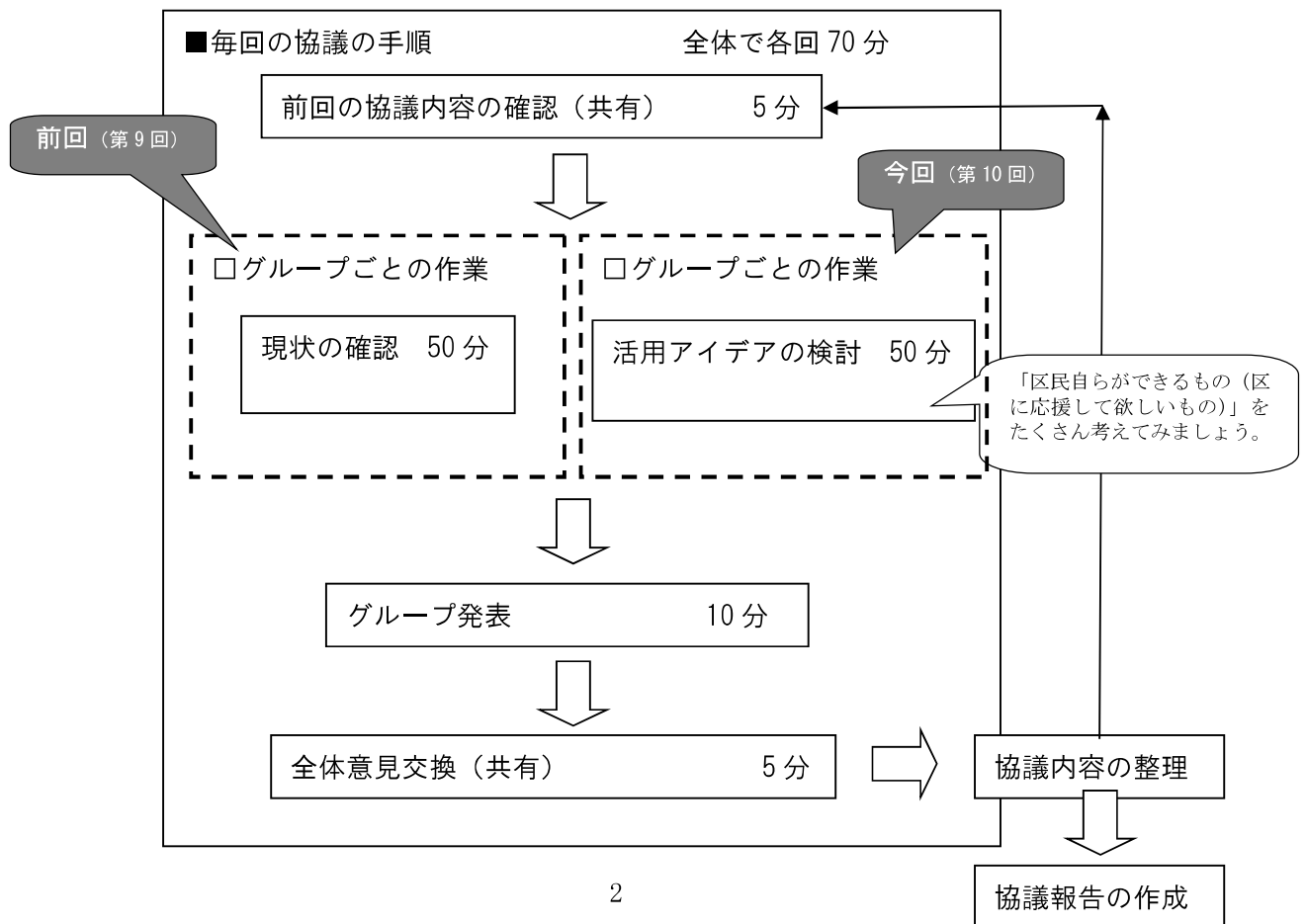
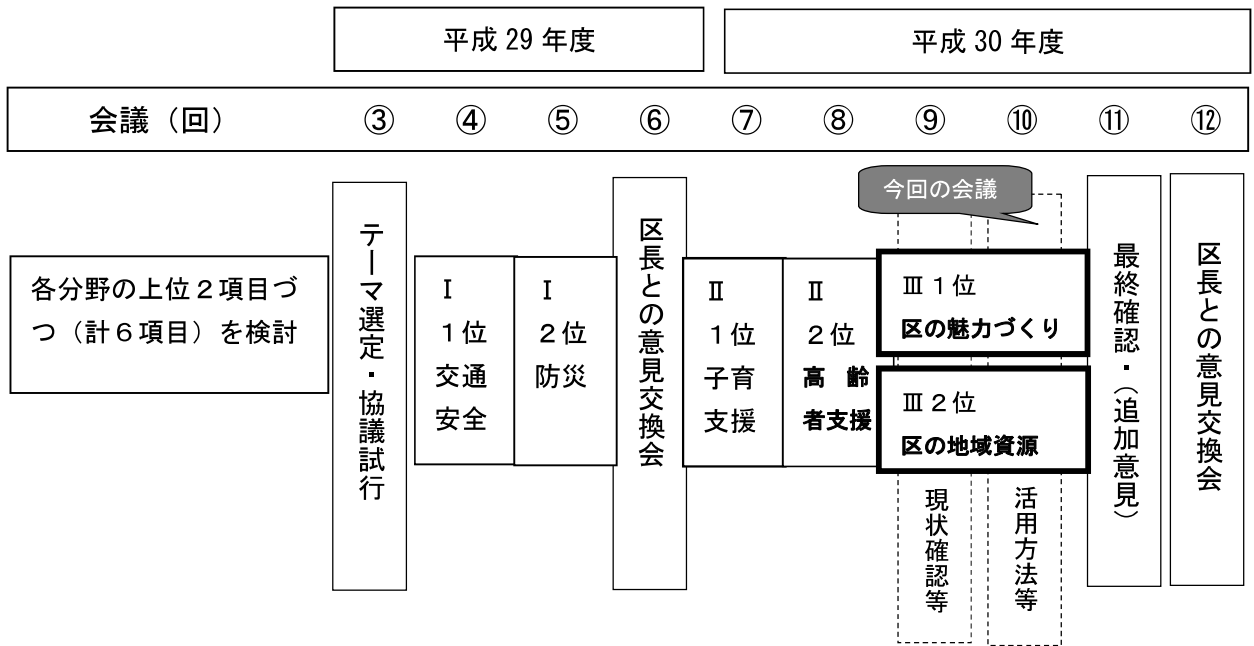
次回は、協議報告書のとりまとめを行い、確認をします。



2. 協議の進め方について

(1) 協議のスケジュール

- ・分野Ⅲについては、「区の魅力づくり」と「地域資源」をあわせ、2回で協議します。
- ・2グループに分かれ、同じテーマを並行して取り扱います。
- ・毎回、グループメンバーの再編成を行います。



平成 30 年度 第 4 回 桜区区民会議 議事要旨

日 時：平成 30 年 10 月 25 日（木） 10 時 00 分～11 時 30 分

会 場：桜区役所 4 階 大会議室

出席者（敬称略）

[第 8 期桜区区民会議委員（五十音順）] 17 名

飯塚 洋子、五十嵐 一志、市村 明広、岩田 明子、榎本 文夫、大江 幸宣、
岡島 玲子、小川 宅次、小澤 嘉昭、川上 強、河野 宏、島崎 幸子、
長沢 正子、原 綾、福島 謙吉、古屋 静香、渡辺 常雄

[事務局]

桜区コミュニティ課
コンサルタント

[傍聴者] なし

欠席者（敬称略）

[第 8 期桜区区民会議委員（五十音順）] 3 名

小山 春佳、高澤 翼、千葉 健太

議 事

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) テーマの協議・意見交換
 - (2) その他
- 3 その他
- 4 閉 会

配付資料： 会議次第

資料 1 / 本日の会議の概要

資料 2 / 協議の進め方について

1 開 会

欠席者の確認、配付資料の確認を行った。

次に、事務局より、会議の公開、議事要旨の公開について説明があった。また傍聴希望者はいないことの報告があった。

2 議 事

(1) テーマの協議・意見交換

コンサルタントより、前回の協議の内容、今後の会議の進め方などについて説明があった。その後、グループに分かれての意見交換を行った。

<グループ分け>

A 長沢副会長、市村委員、岩田委員、岡島委員、小川委員、河野委員、島崎委員、福島委員、渡辺委員

B 川上会長、原副会長、飯塚委員、五十嵐委員、榎本委員、大江委員、小澤委員、古屋委員

【区の魅力作り・地域資源について協議・意見交換】

- 前回は「現状の確認」を踏まえ、追加意見や活用のアイデアなどの協議内容を付箋に記入し、模造紙に貼った。(以下の通り)
- 各グループでの協議内容は、項目ごとに分類整理し、最後に各グループから発表して全員で共有した。

グループAの協議概要

○埼玉大学

- ・学生の、地域や学外を対象にした活動や研究に対して、単位などを与えられるような制度を増やしていけるとよい。ボランティアや地域貢献、インターンなどを考えている人に対して、授業の単位取得や満足感、やりがいといった魅力を提供することが、長続きに必要な。
- ・学生によるフィールドワークや他大学の教授を招いてのシンポジウムなど、大学でも様々な取り組みが行われている。大学の研究と桜区のまちづくりがもっと結び付くとよいのではないか。
- ・大学の開催するシンポジウムなどはチラシやポスター等で広報しているが、一般の区民にはあまり目に触れられない感じがする。
- ・小学校のPTA祭りなどでは、学生がおもちゃ作りなどで出展している。
- ・大学内の学食は一般の方も利用できるもので、昼食時の混雑のピークを上手に外してもらえれば、外部からの利用を歓迎している。

○地域における違い

- ・桜区は東西で地域性に大きな差があり、区民の年齢層や地域づくりの方針などが異なる面もある。
- ・東側のエリアは、新しく転入してきた区民や若い世帯が比較的多く、地域づくりを行う中で旧来からの区民と考え方の違いを感じる事も多い。

- ・大久保地区合同の運動会は64回を数え、年代別のリレーが盛り上がり、世代間交流にとっても効果的である。
- ・児童や保護者は学校ごとにネットワークを形成しているので、学校選択制で他の地域や他の学校に通う子どもたちには地域のイベント情報が伝わりにくい。学校が違っても、同じ地区の行事には積極的に参加して欲しいと考えている。

○地域の文化やイベント

- ・夏休みなどに、子どもチャレンジとして、うどん作りやまんじゅう作りを児童に教える取組みが行われている。うどん作りやわら細工など、後世に語り継ぐべき伝統を残すべく、積極的に体験や講習の機会を設けたい。
- ・区民まつりで販売しているまんじゅうには、毎年行列が出来るほどに盛況で、開店後短時間で売り切れてしまう。まんじゅう以外にも、多くのブースが家族連れで賑わっていた。
- ・子育てフェアを区民まつりと同日に開催したところ、子育て世代を中心に多くの区民が訪れ、大盛況となった。いろいろなイベントで効果的な組み合わせや連携を進めて欲しい。
- ・イベント等限定で入手できるものは、イベント以外ではなかなか認知されにくく、先細りしてしまう面もある。地域の飲食店と連携してメニューにしたり、農協で販売するなど、より身近に入手できるようなものにしていくことも考えたい。

○桜環境センター

- ・11月に開催するエコフェスタでは、各種ワークショップや児童を対象とした催し、物産品店などを実施する。
- ・模擬店や出店などは、衛生面や消防法などの手続きが大変という印象からか、だんだん減少してきている。多くの人が楽しみにしているので、なんとか工夫して楽しいものにしていきたい。
- ・桜環境センターへは西浦和駅、武蔵浦和駅や区役所から送迎バスが出ているが、直行バスのため、さらに細かく乗降できるとよいと思う。

グループBの協議概要

○埼玉大学

- ・以前、埼玉大学のサークルのキャンプに子どもが参加したことがあり、良い経験になった。埼玉大学生と自治会（特に子どもたち）とのつながりをさらに強くしたい。
- ・大学内のログハウス「交流ひろば」では、学生にボランティア情報を紹介している。

○無料塾ひこざ

- ・埼玉大学の学生と地域の区民で、経済的困難などの課題を抱える子どもの居場所・学びの場づくりのための活動をしている。主に埼玉大学生等ボランティアが行う一対一の学

習支援が特徴のひとつとなっており、子どもたちが学生たちとの交流をとおして、学ぶことの楽しさや将来の目標を見つけるなど、様々な効果が生まれている。

- ・埼玉大学生等のボランティアは、教育学部だけでなく、理系の学生なども参加しており、彼らにとってもいい経験になっている。年齢の近い大学生が教えているので、子どもたちにとって親しみやすいようだ。
- ・運営資金の確保が課題となっている。
- ・近隣のラーメン店が、月に1回差し入れしてくれる。大手飲料メーカーからも飲み物の差し入れがある。また、手作りのお菓子を提供してくれる方もいる。
- ・学童保育のようなスペースの設置を検討している「自治会」の視察もあったとのこと。「ひこぎ」としては、学習塾に限らずいろいろな場所に子どもの居場所ができればよいと思う。
- ・子ども食堂などの支援に関心がある人もいる。自治会館などのように各地区に設置できるとよい。

○地域情報の発信や共有

- ・「フードバンク」に寄付したい人や利用したい人、子ども食堂を手伝いたい人、学習のボランティアをしたい人など、様々な情報の発信と活用をしやすい。自治会などを通じて各個人に伝わる方法があるとよい。
- ・余っている物品はたくさんあるので、「フードバンク」の機能を利用して、もっと広い範囲の助け合いに活用できるようになるといい。
- ・ボランティアを始めたい人や、ボランティアを必要としている団体・施設等が、情報を入力できる拠点機能が桜区内にあるとよい。
- ・地域の歴史や文化、他地域の情報も得られるよう、発信がもっと活発になるとよい。
- ・写真やイラストなどをメインにした桜区の地域の絵本を作って、情報発信したらどうか。
- ・高齢者の方には、子どもたちに昔の遊びを教えてほしい。
- ・桜区に居住している学生には、地域に関わることで馴染み、若いリーダーになってほしい。
- ・障害者や外国人に優しく、自然に共存できるまちになるとよいと思う。
- ・桜区で育てられた子どもたちが、次世代の地域をつくっていく様になればよいと思う。

3 その他

榎本委員より、無料塾ひこぎの広報誌「ひこぎ便」の案内があった。

小澤委員より、さいたま桜高等学園「カフェ桜家」の案内があった。

事務局より、「さくらくらぶ 第14号」発行の報告があった。

また、次回会議を平成30年12月21日（金）10時から、桜区役所4階大会議室にて開催する旨の連絡があった。

4 閉 会

以 上